

# ニョロ語のタブー表現：その記述と分析

梶 茂 樹

## 要 旨

本稿はウガンダ西部のニョロ語のタブー表現を記述し、その形式と内容の分析を試みるものである。ニョロ語のタブー表現を記載した文献はなく、またその他の民族のタブー表現についても本稿で行ったような内容の論理構造分析は皆無である。

ニョロ語のタブー表現は、例えば、「男の子はカマドに腰をかけてはいけない。」のように、行為の禁止を述べるものである。しかし、表現はされないが、「もし男の子がカマドに腰をかけると、父親が死ぬ。」という風に、行為の禁止の違反と結果が含まれる。しかし、行為の禁止の本当の理由である「火傷をするから。」ということは隠される。禁止の本当の理由の代わりに、怖い結果が違反の時間的推移による因果律のように示されることに特徴がある。それに対してタブー化されていない通常の禁止を表す警句では、「寝る前に水をたくさん飲むと、寝小便をする。」のように、怖い結果はなく、違反に続いて禁止の本当の理由が述べられる。

タブーというのは、人の行動を制御する大きな原動力となっている。自らを律し、また人をいたわることを可能にする。アフリカの伝統的社会においては、これが大きな社会的役割を果たす。こういった観点から見ると、なぜニョロ社会で多くの習慣的行為がタブー化されているかが理解できる。

またニョロ語にはタブーに関連して不吉というものがある。これは例えば「旅行に出かけようとした時、ネズミが道を横切るのを見たら、旅行を取りやめる。」と言ったものである。不吉はタブーと似た論理構造を持つが、タブーが命令に従うか従わないかは別にして、自らの判断で行為を行うか行わないかを定めることができるのに対して、不吉は自らコントロールできないことが生じた場合の対処の仕方を教えるものである。

キーワード：タブー、不吉、論理分析、隠された理由、ニョロ族

## 1. はじめに

アフリカには各地にタブーとされているものがある。これは日本にもあり、恐らく世界中にあるのであろう。ここで言うタブーとは、例えば日本で、「夜中に口笛を吹くと鬼が来る。」といった類のものである。

筆者は、2008年からウガンダ西部で話されるニョロ語<sup>1)</sup>の調査を続けている。十分に研究されていない言語の記述に際しては、調査者の行うことは、まず語彙集（辞書）、文法、テキストの3つのものを作ることである。本稿で取り扱うタブー表現も、テキスト作成の一環として行われているものである<sup>2)</sup>。

本稿ではニョロ語のタブー表現を形式と内容の両面から分析する。形式面には、言語表現に関するものと論理形式に関するものがあり、内容面には論理の内容に関するものがある。

## 2. タブーと不吉

ニョロ語にはタブーに関連する語として次の3つがある。

- (1) a. *ihâno* (sg.), *amahâno* (pl.)      タブー, 禁止事項, 禁忌  
 b. *ekisirâni* (sg.), *ebisirâni* (pl.)      不吉なこと, 予兆, 前兆  
 c. *omuzîro* (sg.), *emizîro* (pl.)      トーテム

(1a)の *ihâno*<sup>3)</sup>「タブー, 禁止事項, 禁忌」というのは, 例えば「男の子はカマドに腰をかけてはいけない。」というものである。そして表現はされないが, その後に「もし男の子がカマドに腰をかけると, 父親が死ぬ。」と続く<sup>4)</sup>。上で挙げた日本の「夜中に口笛を吹くと鬼が来る。」と同様である。こう言った怖い結果を招く禁止表現を, 本稿ではタブー表現と呼ぶ。

タブーに関連して, (1b)の *ekisirâni*「不吉なこと, 予兆, 前兆」と呼ばれるものがある。これは, 例えば「旅行に出かけようとした時, ネズミが道を横切るのを見たら, 旅行を取りやめる。」といったものである。日本では「ご飯を食べているとき箸が折れると縁起が悪い。」とか, 逆に, 「茶柱が立つと縁起がいい。」という風に, 予兆, 前兆に関するものが多いが, ニョロ語では, 今までのところ, 不吉なことを表すものしか出てきていない。

(1c)の *omuzîro* というのは, ニョロ族を構成するクランのトーテムである。トーテムにはそれに関する様々な規則があり, タブーとも密接に関係する。例えば, *omugwêri* (sg.), *abagwêri* (pl.) というクランは *engâbi* (sg., pl.)「ブッシュバック」をトーテムとしており, 彼らには, ブッシュバックを食べたらいけないなど, この動物にまつわる一連のタブーがある。イスラム教徒が豚を食べないのも, ニョロ族の理解では, このタブーによるものである。*ihâno* がニョロ社会全体にかかわるタブーであるのに対して, この *omuzîro* のタブーは, 当該クランの成員のみにかかわるものであるという違いがある。

以下, 本稿では, *ihâno* に属するタブーと, それと関連する *ekisirâni*「不吉なこと」のみを考察の対象とする。クランのトーテムに関連するタブーは, クラン固有の問題とも関係しているので, 本稿の対象とはしない。

## 3. タブー表現の構造

*ihâno* におけるタブー表現の基本は, 「～してはいけない」という禁止, すなわち否定命令である。しかしながら, 禁止のタブー表現には, 表現はされないが, (2)で示すように, 必ず, 「もしこれをしたら, 何々する。」という, 禁止の違反とそれがもたらす結果が含まれている。違反の結果は, 多くの場合, 「死ぬ」とか「事故に遭う」という不幸を伴うものである。この

ように、タブー表現にはいくつかの節 (clause) が含意されているため、本稿では、ニョロ語のタブー表現を分解し、含まれる節を1つずつ明確にすることによって考察を進めることにする。

(2) タブー表現の論理構造

- a. 命令 (禁止であることが多い)
- b. 違反
- c. 結果 (不幸が生じるのが普通)

ニョロ語タブー表現の典型的な例として、上で挙げた「男の子はカマドに腰をかけてはいけない。」の場合を見てみよう。この分析は(3)と(4)のようである。(3)は言語的分析、そして(4)は論理構造分析である。

(3) a. Omwó:dʒó t'aiká:rrá haihêga.

b. o-mu-odʒo ti a-ikarr-a ha-i-hega.

c. Aug1-NPr1-boy not he-sit-Fin NPr16-NPr5-cooking.stone<sup>5)</sup>

d. 男の子はカマド<sup>6)</sup>に腰をかけてはいけない。

(4) a. 命令：男の子はカマドに腰をかけてはいけない。

b. 違反：男の子がカマドに腰をかける。

(b'. 違反条件：もし男の子がカマドに腰をかけると、)

c. 結果：父親が死ぬ。

(3a)はニョロ語の表現を簡略音声表記で記してある。(3b)はニョロ語の一語一語を形態素に分けたもの、(3c)は各形態素の意味、そして(3d)はこのタブー表現の意味(日本語訳)である。(4)の論理構造分析では、(2)で示したように、まず、(4a)「男の子はカマドに腰をかけてはいけない。」という否定命令(=禁止)がある。これが(3)で表現されているわけである。次に、(4b)「男の子がカマドに腰をかける。」という違反がある。これは実際には、(4b')のように、「もし男の子がカマドに腰をかけると、」と、違反条件で示される。そして最後に、(4c)「父親が死ぬ。」という結果が来る。

ニョロ語のタブー表現は、(4)のように、全体として、命令、違反、結果という要素から成り立っており、結果が、命令→違反→結果という風に、行為の時間的推移による因果律のように表現されるところに特徴がある。また、違反から結果へ至る過程に非論理的な飛躍があることも大きな特徴である。なぜ男の子がカマドに腰をかけると、父親が死ぬのかよくわからないのである。ここが重要なところである。この点はあとで述べるとして、次に、タブー表現のも

う1つの重要な点について述べる。

タブー表現のもう1つの重要な点は、多くの場合、行為の禁止に隠された理由があるということである。つまり、なぜ男の子がカマドに腰をかけたらいけないのかという本当の理由である。これは私見によれば、カマドに腰をかけると火傷をするから、ということである。しかしタブーは、「火傷をするからカマドに腰をかけるな。」とは言わずに、「父親が死ぬからカマドに腰をかけるな。」と言うのである。したがって、タブー表現の論理構造を考える場合、(2)そして(4)にもう1つ、隠された理由を付け加えなければならない。

(5) タブー表現の4つの節

- a. 命令：男の子はカマドに腰をかけてはいけない。
- b. 違反：男の子がカマドに腰をかける。
- (b'. 違反条件：もし男の子がカマドに腰をかけると、)
- c. 結果：父親が死ぬ。
- d. 理由：男の子が火傷をする。

ここで、最初の疑問、なぜ男の子がカマドに腰をかけたら、父親が死ぬと言うのかを考えてみよう。言いたいことは、火傷をするから腰をかけるなということである。しかし、子供は、大人が「火傷をするからカマドに座るな。」と言って、言うことを聞かざらうか。大人の言うことを聞かないのが子供である。そこで、例えばおばあさんが、「お前、そんなところに座ると、父ちゃん死ぬぞ。」と言う。子供は、突然、父親が死ぬと言われて意味がわからない。カマドのことから、突然父親が死ぬというところに意識が行ってしまっ、「エッ！」となる。場合によっては顔が青ざめるということもあるであろう。その時父親が、「アッ、お腹が急に痛くなってきた。」と合わせる。そして、「痛い、痛い、死ぬ！」なんて言ったりすると、子供は驚いて、「父ちゃん死んだら嫌だ。死なないでくれ。僕が悪かった。もう絶対カマドには座らないからーッ。」と、自ら、カマドに座らないことを宣言してしまう。それを聞いた父親は、「そうか。段々お腹が痛いのが治ってきたな。」という具合である。

ここで重要なことは、子供に、カマドに座ることと親が死ぬこととの間の論理関係がわからないことである。この論理関係をよく見ると、違反から不幸に至る過程に、時間的因果関係があるように思わせるということがある。実際、そういう表現になっている。しかし実際には、時間的因果関係などありはしない。子供がカマドに腰をかけても、その後の直接あるいは間接の結果として親が死ぬなんてことはあり得ない。ここで言っているのは、カマドに腰をかけることは、親が死ぬことぐらい悪いことなのだという程度表現である。しかし子供はそうは思わず、そこに時間的因果関係があると考え、カマドに腰をかければ、その結果として親が死ぬという不幸を招くと考える。ここで言う論理の飛躍とは、この因果関係をわかりにくくすることであ

る。もし簡単にわかるようだと、子供がカマドに腰をかけても、親が死なないようにするにはどうすればいいか考えるかもしれない。そこに論理の飛躍があればあるほど、子供はその努力をしなくなり効力を発揮するのである。

もう1つ例を見てみよう。夫の権威に関するものである。

(6) a. Omukázi t'asembézá epáma y'embógô háli íbâ.

b. o-mu-kazi ti a-sembez-a e-n-ama ya e-m-bogo

c. Aug1-NPr1-wife not she-serve-Fin Aug9-NPr9-meat of9 Aug9-NPr9-buffalo

ha-li iba.

SPR16-is[SubRel] her.husband

d. 妻は夫のいるところで野牛の肉を給仕してはいけない。

(7) a. 命令：妻は夫のいるところで野牛の肉を給仕してはいけない。

b. 違反：妻が夫のいるところで野牛の肉を給仕する。

(b'. 違反条件：もし妻が夫のいるところで野牛の肉を給仕すると、)

c. 結果：夫はインポテンツになる。

d. 理由：夫の権威の象徴である野牛の肉は、妻が給仕してはいけない。

野牛は狩猟で得るのが難しく、その肉は夫の権威の象徴である。給仕する時、牛肉や鶏肉などは妻が切り分けていいが、野牛の肉だけは夫が切り分ける。これをもし妻がやると、それは夫の権威を踏みにじたということになる。それを、このタブーでは「夫がインポテンツになる。」と表現する。

#### 4. 肯定命令と否定命令

タブー表現では、命令として、圧倒的に「～するな」という否定命令が多い。以上挙げた(3)および(6)がそうであった。しかし肯定命令表現もしばしば現れる。(8)参照。

(8) a. Omwisíki aikarra hámsí akubíre amagûru.

b. o-mu-isiki a-ikarr-a ha-n-si a-kub-ire

c. Aug1-NPr1-girl she-sit-Fin NPr16-NPr9-ground she-fold-Perf [SubjRel]

a-ma-guru.

Aug6-NPr6-leg

d. 女の子は地面に座る時、脚を折り曲げなければならない。

(9) a. 肯定命令：女の子は地面に座る時、脚を折り曲げなければならない。

b. 違反：女の子が地面に座る時、脚を折り曲げない。

- (b'. 違反条件：もし女の子が地面に座る時，脚を折り曲げないならば，)  
c. 結果：その女の子は不妊になる。

ここでは，肯定命令で「脚を折り曲げて座れ。」と言っているわけであるが，これを否定命令にして，「脚を伸ばして座るな。」と言うこともできる。こうすれば，このタブーが言っているのは禁止ということになる。(10) 参照。

- (10) a. 否定命令 (= 禁止)：女の子は地面に座る時，脚を伸ばして座ってはいけない。  
b. 違反：女の子が地面に座る時，脚を伸ばして座る。  
(b'. 違反条件：もし女の子が地面に座る時，脚を伸ばして座ったら，)  
c. 結果：その女の子は不妊になる。

(8)の論理分析としては(9)でも(10)でも同じことである。筆者としては，ニヨロ語自体の表現を重視する立場なので，論理の最初の部分は命令とし，それに肯定命令と否定命令，すなわち禁止があるという風に考える。ただ，タブーは基本的に行為を禁止するわけであるから，数としては圧倒的に否定命令 (= 禁止) が多いということになる<sup>7)</sup>。なお，このタブーの隠された理由は，「女の子が地面に座る時，脚を折り曲げないと，股の間から下着や局部が見えかねない。これは避けるべきだ。」ということであろう。

(11)も(8)同様，肯定命令である。しかし(11)は(8)とは異なって，後に否定命令が続く。通常，肯定命令と否定命令が一緒に現れることはないが，共起するという事は，肯定命令と否定命令が同じものを表していることを示している<sup>8)</sup>。

- (11) a. Ekyadá:di, bakizí:ká ab'o:rugá:ndá; tibakinágâ.  
b. e-ki-ada:di, ba-ki-zi:k-a a-ba o-ru-ganda; ti  
c. Aug7-NPr7-afterbirth they2-it7-bury-Fin Aug2-of2 Aug11-NPr11-clan not  
ba-ki-nag-a.  
they2-it7-throw-Fin  
d. 後産はクランの者が埋めなければならない。それは決して投げ捨ててはいけない。  
(12) a. 肯定命令：後産はクランの者が埋めなければならない。  
b. 違反：後産を地面に埋めずに捨てる。  
(b'. 違反条件：もし後産を地面に埋めずに不注意に捨てると，)  
c. 結果：後産を犬が食べ，その子供は死ぬ。  
d. 理由：出産の後始末はきちんとしなければならない。

## 5. 禁止あるいは違反と結果

タブーは基本的に行為を禁止するわけであるから、表現として禁止表現になるのは当然と言える。しかしながら中には、数は多くないが、禁止が表現されず、違反と結果だけが示されるものもある。(13)のような例である。

- (13) a. Obu ogobézá ow'omukâgo, ozimba ênda.  
 b. obu o-gobez-a o-wa o-mu-kago, o-zimb-a  
 c. when you(sg.)-betray-Fin Aug1-of1 Aug3-NPr3-pact.of.blood you(sg.)-swell-Fin  
 e-n-da.  
 Aug9-NPr9-belly  
 d. もしあなたが、血の契り<sup>9)</sup>をした友人を裏切ると、あなたのお腹が脹れる。
- (14) a. 命令：あなたは、血の契りをした友人を裏切ってはいけない。  
 b. 違反：あなたが血の契りをした友人を裏切る。  
 (b'. 違反条件：もしあなたが血の契りをした友人を裏切ると、)  
 c. 結果：あなたのお腹が脹れる。  
 d. 理由：血の契りで結ばれた友人は絶対裏切ってはいけない。

この例では、禁止の理由は明らかである。「血の契りで結ばれた友人は絶対裏切ってはいけない。」ということであり、これは表現はされないが、誰でも知っていることであり隠されたものではない。この点が他のものと違うが、その違反から生じる結果は「お腹が脹れる。」という非論理的なものであり、脅しになっている。

この例で重要なことは、禁止と違反・結果の表現の間に、相補分布が見られることである。すなわち、(3)と(6)そして(8)と(11)では、命令（肯定あるいは否定）のみが表現され、違反と結果は表現されない。それに対して(13)の例では逆に、違反と結果のみが表現され、命令が表現されない<sup>10)</sup>のである。

これを逆にすることもできる。例えば、(3)の「男の子はカマドに腰をかけてはいけない。」という否定命令を違反と結果で表現すれば(15)のようになるし、また(13)の違反と結果表現から、禁止表現にすれば、(16)のようになる。これらは結局のところ同じことを表している。

- (15) 男の子がカマドに腰をかければ、父親が死ぬ。  
 (16) 血の契りをした友人を裏切ってはいけない。

以上のことから、ニョロ語のタブー表現について(17)のことが言える。

- (17) a. タブー表現は、命令（肯定あるいは否定）のみが表現されるか、あるいは違反と結果のみが表現され、両方が同時に表現されることはない。
- b. タブー表現は、否定命令（＝禁止）を表現するものが多数を占め、違反と結果を表現するものは少数である<sup>11)</sup>。

## 6. 通常表現とタブー表現の違い

ここで、禁止を含意した通常表現の論理を見てみよう。これと対比することによってタブー表現の特徴がより明確になる。

例えば、日本で、「寝る前に水をたくさん飲むと、寝小便をする。」と言われることがある。この表現を(5)に従って、論理分析すると(18)のようになる。

- (18) 非タブー表現：寝る前に水をたくさん飲むと、寝小便をする。
- a. 命令：寝る前に水をたくさん飲むな。
- b. 違反：寝る前に水をたくさん飲む。
- (b'. 違反条件：もし寝る前に水をたくさん飲むと、)
- c. 結果：なし
- d. 理由：寝小便をするから。

(18)では(13)同様、命令が直接表現されていない。しかし(18)が言いたいのは、明らかに、「寝る前に水をたくさん飲むな。」という否定命令である。なぜかと言うと、「寝る前に水をたくさん飲む。」という違反を犯すと、「寝小便をする。」という結果を招くからである。

今ここで「結果」という表現を用いたが、この「結果」は、例えば(5)の論理分析で言う「結果」とは異なる。むしろ論理分析の「理由」に当たるものである。つまり、この表現には「親が死ぬ。」「お腹が膨れる。」「事故にあう。」などの怖い結果は含まれず、違反をなぜしてはいけないのか本当の理由が述べられているのである。つまり、この非タブー表現では、違反の結果がなく、違反と理由が述べられるのである。従って、bの違反からdの理由への推移が自然であり、誰にでも理解できるものとなっている。

(13)のタブー表現と(18)の非タブー表現は、いずれも直接的には表現されていないが、意図することは行為の禁止であって、それに違反すると何らかの結果が生じるとはいう点では共通している。しかし、タブー表現では本当の理由を隠し、何らかの論理の飛躍を伴った結果が含意される。子供は、カマドに腰をかけたら、なぜ親が死ぬのかわからないのである。もし、「カマドに腰をかけたら火傷をする。」のように違反とその理由を言えば、それは「寝る前に水をたくさん飲んだら寝小便をする。」と同じで、誰にでも理解できるものになる。それでは脅し



にならないし、効果的タブー表現にはならないのである。

では、なぜ「親が死ぬ。」などと言うのかという問題がある。「事故に遭う。」とか「結婚できない。」でもいいではないかという疑問である。もちろん、そこには、行為の違法性、反文化性を、親が死ぬほどの悪さを伴ったものだということはある。しかし、それぞれの表現について、禁止の対象者に最も実感しやすい表現を選ぶことは、タブーの実効性ということから考えて自然なことである。それで、この場合は、親が死ぬということになる。

## 7. わかりやすいタブー表現とわかりにくいタブー表現

ニョロ語のタブー表現には、なぜその行為を禁止するか理由のわかりやすいのも多くある。いくつか紹介しよう。

まず(19)であるが、これは衛生上の問題であろう。しかしながら、表現としては衛生上の問題があるからと言わずに、「睾丸が脹れるから。」と言う<sup>12)</sup>。

(19) a Omusáid̥ʒa t'apá:rá omumusírí gw'ebitakúfí.

b. o-mu-said̥ʒa ti a-par-a o-mu-mu-siri gwa

c. Aug1-NPr1-man not he-urinate-Fin Aug18-NPr18-NPr3-garden of3  
e-bi-takuli.

Aug8-NPr8-sweet.potato

d. 男性はサツマイモ畑で小便をしてはいけない。

(20) a. 命令：男性はサツマイモ畑で小便をしてはいけない。

b. 違反：男性がサツマイモ畑で小便をする。

(b'. 違反条件：もし男性がサツマイモ畑で小便をすると、)

c. 結果：男性の睾丸が脹れる。

d. 理由：重要な食料であるサツマイモにおしっこをかけてはいけない。

次に(21)の例を見てみよう。

(21) a. Omwá:na mwó:dzó t'akwá:tá baná:na omumbádzu, rú:ndi habiŋwé:ká by'ensóni.

b. o-mu-ana mu-od̥ʒo ti a-kwat-a ba-papa o-mu-m-bádzu,

c. Aug1-NPr1-child NPr1-boy not he-touch-Fin NPr2-sister Aug18-NPr18-NPr10-side  
rundi ha-bi-ŋweka bya e-n-soni.

or NPr16-NPr8-part of8 Aug9-NPr9-shame

d. 男の子は姉妹の脇腹や下腹部に触ってはいけない。

- (22) a. 命令：男の子は姉妹の脇腹や下腹部に触ってはいけない。  
 b. 違反：男の子が姉妹の脇腹や下腹部に触る。  
 (b'. 違反条件：もし男の子が姉妹の脇腹や下腹部に触ると、)  
 c. 結果：父親が事故に遭う。  
 d. 理由：男の子は姉妹と性的行為につながるような接触をしてはならない。

これは、誰が見ても性的なことが関係しているとわかる。しかしその場合でも、違反した場合の結果は、非論理的で怖いものである。「父親が事故に遭う。」というのは、いくら自分が気をつけていても無理なことである。そして、そんなことは絶対に起こってはいけない。従って、男の子にとって、姉妹の脇腹や下腹部に触るなんてことは、決してしてはならないということになる。(23)のような義理の関係にも性的な要因が強く働いている。

- (23) a. Omusáidža t'ályá ebyokúlyá na pinazâra.  
 b. o-mu-saidža ti a-li-a e-bi-okulya na pina-zara.  
 c. Aug1-NPr1-man not he-eat-Fin Aug8-NPr8-eating with his.mother-in-law  
 d. 男性は義理の母と一緒に食事をしてはならない。  
 (24) a. 命令：男性は義理の母と一緒に食事をしてはならない。  
 b. 違反：男性が義理の母と一緒に食事をする。  
 (b'. 違反条件：もし男性が義理の母と一緒に食事をすれば、)  
 c. 結果：事故など重大な不幸が彼の身に起こる。  
 d. 理由：一緒に食事をするという事は親密性を高め、ひいては、それが性的な関係に及ぶことがある。そういうことは避けねばならない。

次の(25)も一見難しそうに見えるが、素直に考えれば理解できるものである。日本でも、「夜口笛を吹くと、泥棒が来る。」とか「鬼が来る。」などと言われる。同じ発想であろう。

- (25) a. Omusáidža t'asulízá ekírô.  
 b. o-mu-saidža ti a-suliz-a e-ki-ro.  
 c. Aug1-NPr1-man not he-whistle-Fin Aug7-NPr7-night  
 d. 男は夜口笛を吹いてはならない。<sup>13)</sup>  
 (26) a. 命令：男は夜口笛を吹いてはならない。  
 b. 違反：男が夜口笛を吹く。  
 (b'. 違反条件：もし男が夜口笛を吹くと、)  
 c. 結果：家族が減じる。

- d. 理由：夜は暗くてよく見えないが、口笛を吹くとそこに家があることがわかる。そして、それが泥棒や強盗を引き寄せることになる。

女性の生理はタブー表現の大きなテーマの1つである。(27)の例を見てみよう。

- (27) a. Omwisíki<sup>14)</sup> t'akámá ênte álí omubigérê.  
 b. o-mu-isiki ti a-kam-a e-n-te a-li  
 c. Aug1-NPr1-girl not she-milk-Fin Aug9-NPr9-cow she-is[SubjRel]  
 o-mu-bi-gere.  
 Aug18-NPr18-Npr8-foot<sup>15)</sup>  
 d. 月経中の女性は牛の乳しぼりをしてはならない。  
 (28) a. 命令：月経中の女性は牛の乳しぼりをしてはならない。  
 b. 違反：月経中の女性が牛の乳しぼりをする。  
 (b'. 違反条件：もし月経中の女性が牛の乳しぼりをする、)  
 c. 結果：牛の乳首が詰まり乳が出なくなり、牛は死ぬ。  
 d. 理由：月経中の女性に重い仕事をさせないように配慮する。

「月経中の女性は牛の乳しぼりをしてはならない。」とは、牛を飼う世界の多くの地域で言われるのではないと思われる。ニョロ族は、その理由を、「月経中の女性が牛の乳しぼりをする、ミルクの中に経血が混るかもしれないから。」という理由を述べる。これは一見もっともらしい理由であるが、筆者には口実に見える。牛の乳しぼりというのは重労働である。生理中の女性は必ずしもいつも体調がいいわけではない。体がつらい時もあるはずだ。そういう時には無理をせずに休ませてあげようという配慮なのではないだろうか。

「月経中の女性は夜、羽蟻取りに行ってはならない。」というものもある。これも同じ理由からだと思われる。

- (29) a. Omwisíki murwáire t'agémdá kukwáta é:mswá ekírô.  
 b. o-mu-isiki mu-rwaire ti a-gend-a ku-kwat-a e-n-swa  
 c. Aug1-NPr1-girl NPr1-sick<sup>16)</sup> not she-go-Fin to-catch-Fin Aug10-NPr10-termite  
 e-ki-ro.  
 Aug7-NPr7-night  
 d. 月経中の女性は夜、羽蟻取りに行ってはならない。  
 (30) a. 命令：月経中の女性は夜、羽蟻取りに行ってはならない。  
 b. 違反：月経中の女性が夜、羽蟻取りに行く。

- (b'. 違反条件：もし月経中の女性が夜、羽蟻取りに行くと、)  
 c. 結果：羽蟻が穴から出てこない。  
 d. 理由：月経中の女性に重い仕事をさせないように配慮する。

羽蟻取りというのは、夜中の3時頃に真っ暗な道を松明を照らして行く過酷な労働である。なぜ月経中の女性が羽蟻取りに行ってはならないのか、その理由を聞くと、彼らは、「羽蟻は血の匂いに敏感で、月経中の女性が来ると羽蟻が穴から出てこないから。」と言う。血の匂いと羽蟻との間にどのような因果関係があるのか、あるいはないのか筆者にはわからない。恐らく、そういうこととは関係なく、生理中の女性を休ませてあげるため、もっとらしい理由をつけているのであろう。

ここで重要なことは、生理中だからというのは理由にならないということである。女性の仕事は多岐にわたり、生理中だからしなないとすれば、多くの事柄がストップし、社会が回っていかない。従って、一見表向きに理由が付きそうなものをタブーとして女性の負担を減らしているのだと思われる。

しかしながら、同じ女性の生理に関することでも、次の(31)(32)のように理解の簡単でないものもある。

- (31) a. Omwisíki t'agurúka amagúru ga jína alí omukwé:zi.  
 b. o-mu-isiki ti a-guruk-a a-ma-guru ga jina  
 c. Aug1-NPr1-girl not she-stride.over-Fin Aug6-NPr6-leg of6 her.mother  
 a-li o-mu-ku-ezi.  
 she-is[SubjRel] Aug18-NPr18-NPr15-month<sup>17)</sup>  
 d. 月経中の女性は地面に座っている母親の脚の上を跨いではならない。
- (32) a. 命令：月経中の女性は地面に座っている母親の脚の上を跨いではならない。  
 b. 違反：月経中の女性が地面に座っている母親の脚の上を跨ぐ。  
 (b'. 違反条件：もし月経中の女性が地面に座っている母親の脚の上を跨ぐと、)  
 c. 結果：母親は死ぬ。  
 d. 理由：？

ニョロ族は年長性に重きをおく社会であり、子供が父親や母親の言うことを聞くのは絶対である。そういう観点からすると、娘が地面に足を延ばして座っている母親の脚の上を跨ぐというのは、普通はありえないことである。それは娘が月経中であろうがなかろうが関係ない。なぜダメなのか人々に聞くと、「経血で母親を汚していけないから。」と言うが、そもそも地面に足を延ばして座るのは年配の女性のみであって<sup>18)</sup>、若い女性は足を延ばしては座らない。そし

て男性は腰掛に座るのであって地面には座らない。従って、跨ぐ対象となるのは年配の女性のみである。象徴論的に解釈すれば、これは生理のある若い女性と閉経後の年配女性の対立であり、その上下関係を崩してはならないということなのであろう。

同じ「跨ぐ」でも、(33)のようなものは理解しやすい。

(33) a. Omusáidža t'agurúká omwá:ná wê.

b. o-mu-saidža ti a-guruk-a o-mu-ana u-e.

c. Aug1-NPr1-man not he-stride.over-Fin Aug1-NPr1-child PPr1-his

d. 男性 (= 父親) は寝ている子供の上を跨いではいけない。

(34) a. 命令：男性は寝ている子供の上を跨いではいけない。

b. 違反：男性が寝ている子供の上を跨ぐ。

(b'. 違反条件：もし男性が寝ている子供の上を跨ぐと、)

c. 結果：子供が死ぬかバカになる。

d. 理由：子供の上を跨ごうとしても、誤って子供を踏みつけてしまうことがあるので、跨ごうとしてはならない。

筆者は、長年のアフリカでの経験から、タブー表現の裏に隠された、してはいけない理由を常に考えてきた。そして、その理由は多くの場合、日常生活で気を付けなければならないことや、仕来りやマナーに由来するものが多いことに気が付いた。一般的な言い方をすると、機能主義的、あるいは実利主義的な観点からの理解である。これが彼らの伝統的社会で、人の行動を規制する大きな手立てとなっている。

## 8. 習慣的行為のタブー化

前節では(32)のように、隠された理由のわかりにくい例もあるということを述べたが、タブーの中には習慣的とでも呼べるものも多く含まれており、それらは強いて隠された理由を求める必要のないものである。(35)の例を見てみよう。(35)では(36d)の隠れた理由というものが見当たらない<sup>19)</sup>。しかし注意すべきは、(36)にあるように、命令と違反と結果は備わっているということである。こういった例から判断すると、ニョロ語のタブー表現を構成する必須のものは、命令と違反と結果のみであって、理由は多くのものにあるが、習慣とか仕来りと呼ばれているものは理由がなくても成立するということになる。恐らく、こういったものは本来(怖い)結果を持ってこなくても、習慣的ということだけで成立するのかもしれないが、ニョロ社会はこういったものまでタブー化するのである。しかしこういったタブー表現が逆に、タブーとは、日常生活の様々な行動規制など、広い意味での文化的規範を表したものであることを示しているように思われる。

- (35) a. Omukázi obu á:bá azáire, t'ályá é:nswâ rû:ndi enkó:lé.  
 b. o-mu-kazi obu a-ba-a a-zar-ire, ti a-li-a  
 c. Aug1-NPr1-woman when she-is-Fin she-bear-Perf not she-eat-Fin  
 e-n-swa rundi e-n-ko:le.  
 Aug10-NPr10-termite or Aug10-NPr10-cowpea  
 d. 女性は出産したら（約3か月は）羽根蟻やササゲ豆を食べてはいけない。
- (36) a. 命令：女性は出産したら（約3か月は）羽根蟻やササゲ豆を食べてはいけない。  
 b. 違反：女性が出産して（約3か月以内に）羽根蟻やササゲ豆を食べる。  
 (b'. 違反条件：もし女性が出産して（約3か月以内に）羽根蟻やササゲ豆を食べたら、)  
 c. 結果：女性は腹痛を起こし、おなかが腫れる。  
 d. 理由：習慣的

(37) は結婚の準備に関する慣習的行動をタブー表現化したものである。

- (37) a. Omukázi obu aswé:rwâ, bamutwa:ra hakasákâ nibamwegésá eby'a:mákâ.  
 b. o-mu-kazi obu a-swer-w-a, ba-mu-twar-a  
 c. Aug1-NPr1-woman when she-marry-Pass-Fin they2-her-take-Fin  
 ha-ka-saka ni ba-mu-eges-a e-bya a-ma-ka.  
 NPr16-NPr12-bush Prog they2-her-instruct-Fin Aug8-of8 Aug6-NPr6-house  
 d. 女性が結婚すると（村の女たちは）彼女を藪の中に連れて行き、結婚の心得を教えなければならない。
- (38) a. 命令：女性が結婚すると（村の女たちは）彼女を藪の中に連れて行き、結婚の心得を教えなければならない。  
 b. 違反：女性が結婚しても（村の女たちが）彼女を藪の中に連れて行かず、結婚の心得を教えない。  
 (b'. 違反条件：もし女性が結婚して（村の女たちが）彼女を藪の中に連れて行かず、結婚の心得を教えないならば、)  
 c. 結果：その結婚は破綻し、婚資を返さなければならなくなる。  
 d. 理由：習慣的

## 9. 命令表現の形式

ここでタブー表現における命令の表現形式を確認しておこう。命令表現は、肯定命令であれ否定命令であれ、言語形式としては動詞の一般現在形が用いられるのが普通である。本稿で用

いた例は全てそうであった。一般現在形というのは、地球は回るとか川の水は流れるといった一般真理を表現する形式で、この形式で人間の行動を表現すると、肯定では本来人間というものはそのものだという強制力が働かし、否定ではそうしてはならないという強制力のある否定命令になる。

命令表現には、動詞の一般現在形以外にも、これまでの例には出てこなかったが、(39)のように欠如動詞 *-ina* 「持つ」の現在変化に動詞の不定形を続けたもの（英語の *have to* に似ている）や、(40)のように動詞 *okusemê:rra* 「することになっている」を完了状態形においたものがしばしば見られる。また、数は少ないが(41)のように、「誰もいない」（英語の *there is no one*）に当たる表現や、(42)のように「～するのは悪い」といったものがある。

- (39) a. Omusáidza t'áina kulí:ra omusefuliyá.  
 b. o-mu-saidza ti a-ina ku-li-ir-a o-mu-sefuliya.  
 c. Aug1-NPr1-man not he-has to-eat-AppI(from)-Fin Aug18-NPr18-cooking.pan  
 d. 男は鍋から直接物を食べてはいけない。
- (40) a. T'osemerí:ré okusendekeréza pokozâ:ra.  
 b. ti o-semerr-ire o-ku-sendekerez-a joko-zara.  
 c. not you(sg.)-be.suposed-Perf Aug15-to-escort-Fin your.mother-in.law  
 d. あなた（＝義理の息子）は義理の母を送って行ってはいけない。
- (41) a. Busáhó múntu akwá:ta enkerê:mbe omumútwê oihiréhó jína.  
 b. bu-sa ho mu-ntu a-kwat-a  
 c. NPr14-nothing Clit16(there) NPr1-person he-touch-Fin[SubRel]  
 e-n-kerembe o-mu-mu-twe o-ih-ire.  
 Aug9-NPr9-newborn.baby Aug18-NPr18-NPr3-head you(sg.)-remove-Perf  
 hó jína.  
 Clit16(there) its.mother  
 d. 母親以外何人も新生児の頭に触る人はいない。
- (42) a. Kiba kíbí okwe.mé:rra haigúru hakítú:ro eky'eitâka.  
 b. ki-ba-a ki-bi o-ku-emerr-a ha-i-guru  
 c. it7-be-Fin NPr7-bad Aug15-to-stand-Fin NPr16-NPr5-above  
 ha-ki-turo e-kya e-i-taka.  
 NPr16-NPr7-grave Aug7-of7 Aug5-NPr5-soil  
 d. 盛り土をしてある墓の上に立つのは悪いことである。

## 10. 不吉なこと

ekisirâmi「不吉なこと，予兆，前兆」はタブーとよく似ている。どう判断していいか迷うものもある。まず典型的な不吉なことと思われる(43)を見てみよう。

- (43) a. Obu óbá n'orubátá orugé:ndo, embéba t'efwanganizá omuhâ:nda.  
 b. obu o-ba-a ni o-rubat-a o-ru-gendo, e-m-beba  
 c. when you(sg.)-be-Fin Prog you(sg.)-walk-Fin Aug11-NPr11-journey Aug9-NPr9-rat  
 ti e-ŋwanganiz-a o-mu-handa.  
 not it9-cross-Fin Aug3-NPr3-road  
 d. あなたが旅行に出かけようとする時，ネズミが道を横切ってはならない。
- (44) a. 命令：あなたが旅行に出かけようとする時，ネズミが道を横切ってはならない。  
 b. 違反：あなたが旅行に出かけようとする時，ネズミが道を横切る。  
 (b'. 違反条件：もし，あなたが旅行に出かけようとする時，ネズミが道を横切ったら，)  
 c. 結果：あなたは事故に遭う。  
 d. 理由：なし(?)

(43)の不吉なことがタブーと同じような論理構造を持っているとすると，その論理構造は(44)のようになる。しかし，これがタブー表現と大きく異なるのは，(43)にネズミが道を横切るという自分ではコントロールできないことが生じていることである。タブーの場合は，例えば，カマドに腰をかけるかかけないか，また脚を曲げて座るか座らないかなど，命令に従うか従わないかは別にして，自らの判断で行為を行うか行わないかを定めることができる。上の不吉の場合もちろん旅行を中止することは自らの判断で行えることであるが，ネズミが道を横切ること自体は制御できない。このように不可抗力が生じるところがekisirâmi「不吉なこと」の大きな特徴だと筆者は考える。また，禁止の隠された理由というものも不明である。

(45)の例も，フクロウが夜家の上で鳴くという自らは制御できないことが生じている。これもekisirâmi「不吉なこと」である。ニョロの人たちは夜フクロウが家の上で鳴くとすぐさま火のついた棒を投げてフクロウを追い払う。

- (45) a. Ensindízi t'efúrá ekíró é:ri haigúru y'éndzú.  
 b. e-n-sindizi ti e-ŋur-a e-ki-ro e-ri ha-i-guru  
 c. Aug9-NPr9-owl not it9-cry-Fin Aug7-NPr7-night it9-is[SubRel] NPr16-NPr5-above  
 ya e-n-dzu.  
 of9 Aug9-NPr9-house



- d. フクロウは夜家の上で鳴いてはならない。
- (46) a. 命令：フクロウは夜家の上で鳴いてはならない。  
 b. 違反：夜フクロウが家の上で鳴く。  
 (b'. 違反条件：もし、夜フクロウが家の上で鳴いたら、)  
 c. 結果：その家の誰かが死ぬ。  
 d. 理由：なし(?)

不吉においては自らの意思とは関係ないことが生じるということで、(43)や(45)のようにしばしば動物が出てくる。しかしながら、動物が出てきても必ずしも不吉ではないこともある。(47)の例は、犬がベッドで寝ないようにすることはあなたが制御できることなので、不吉ではなくタブーである。

- (47) a. É:mbwá t'ebýámá omukítábu ky'omú:ntu.  
 b. e-m-bwa ti e-byam-a o-mu-ki-tabu kya o-mu-ntu.  
 c. Aug9-NPr9-dog not it9-sleep-Fin Aug18-NPr18-NPr7-bed of7 Aug1-NPr1-person  
 d. 犬は人のベッドで寝てはならない。
- (48) a. 命令：犬があなたのベッドで寝ないように、犬を遠ざけておかなければならない。  
 b. 違反：犬があなたのベッドで寝る。  
 (b'. 違反条件：もし犬があなたのベッドで寝ると、)  
 c. 結果：あなたは事故に遭ったり蛇に咬まれたりする。  
 d. 理由：犬は糞やネズミを食べるので、病原菌を持っている可能性があり、人のベッドという清潔に保っておかなければならないところには近づけてはならない。

次に、(49)の例を考えてみよう。小鳥が出てくる例で、不吉と考えられがちのものである。しかし筆者は、これをタブー表現と見る。要は、それで何が言いたいのかを見極めることである。

- (49) a. Ekijóni tikirábá hagátí omú:ndzú.  
 b. e-ki-n-oni ti ki-rab-a ha-gati o-mu-n-dzu.  
 c. Aug7-NPr7-NPr9-bird not it7-pass-Fin NPr16-center Aug18-NPr18-NPr9-house  
 d. 小鳥は家の中を飛び抜けてはならない。
- (50) a. 命令：家のドアは開けっぱなしにしていけない。  
 b. 違反：あなたが家のドアを開けっぱなしにする。  
 (b'. 違反条件：もしあなたが家のドアを開けっぱなしにすると、)

- c. 結果：家族の者が死ぬ。
- d. 理由：泥棒や強盗が家に入らないように家のドアはきちんと閉めておくべきだ。

筆者は、小鳥が家の中を飛び抜けるということは、家のドアがちゃんと閉まっていないことを表しているとする。これを、小鳥が家の中を飛び抜けるという不可抗力を表していると思えば、不吉と見えてくる。しかし、人は小鳥が家の中を飛び抜けることがないようにコントロールすることはできるのである。それは、小鳥自体をコントロールすることではなく、そうならないように家のドアをコントロールするのである。そして、自らコントロールしないならば、家族の者が死ぬという怖い結果が待っているのである。これが、タブー表現の本質である。

人間もコントロールできないことがある。(51)の例を見てみよう。誰かが訪問して来る時、お土産を持って来るかどうか、あるいは何を持って来るかは、その人次第であり、こちらがコントロールすることはできない。そして、もし人が手ぶらで訪問して来たら不吉なことである。

- (51) a. Omugéjɪ obu aídʒá, atáina kíntu kyôna, tibamusárrá enkôko.  
 b. o-mu-gejɪ            obu a-idʒ-a,            a-ta-ina            ki-ntu  
 c. Aug1-NPr1-visitor when (s)he-come-Fin (s)he-not-have[SubRel] NPR7-thing  
 ki-ona,    ti ba-mu-sar-ir-a            e-n-koko.  
 PPr7-any not they2-him/her-slaughter-Appl(for)-Fin Aug9-NPr9-chicken
- b. お客が手ぶらで来たら、その人のためにニワトリを絞める必要はない。
- (52) a. 命令：人が訪問する時、手ぶらで来てはならない。  
 b. 違反：お客が手ぶらで来る。  
 (b'. 違反条件：もしお客が手ぶらで来たら、)  
 c. 結果：ニワトリを絞めて供する必要はない。  
 d. 理由：？

ニョロ社会では、人を訪問する時、必ず何かのお土産を持って行く。これが決まりである。通常は男性はバナナの房、女性はインゲン豆やヒエあるいはトウモロコシの粉などを携えて行く（男性はかつては、よく地酒をヒョウタンに入れて持って行ったが、最近は少なくなった）。そして、お客が来るとニワトリを絞めてもてなす。しかし、もしお客が手ぶらで来たら、ニワトリを絞めない。手ぶらで来るということは不吉を持って来るということであり、こちらの対抗策としては、帰るまで何も出さず話だけ続けるということになる。

## 11. すべては実利か

本稿での分析の特徴の1つは、タブー表現の論理分析をしながら、裏の意味を考えたことである。そうは言うけれど、本当はどうなのかということである。ただ、タブーの存在理由をすべて、実利的、機能主義的に捉えることがいいことなのかどうかはわからない。しかし、これはその観点から一度やってみなければならぬことだと筆者は考える。

実際のところ、筆者はタブーがすべて機能主義的に理解できるとは思っていない。(53)のような例を見てみよう。なぜ女性が墓穴を掘ってはならないのか。これは、習慣的にそうなっているとしか今のところ答えようがない。ニョロ社会では、埋葬時、女性は遺体が墓穴に到着するまで墓場に来ないことになっている。女性は棺桶に付き添って墓場に来るのである。しかし、これも象徴論的に分析すれば、墓穴と女性の因果関係を明らかにできるのかもしれない。

- (53) a. Omwisíki t'álmá ekitúro.  
 b. o-mu-isiki ti a-lim-a e-ki-turo.  
 c. Aug1-NPr2-girl not she-dig-Fin Aug7-NPr7-burial.pit  
 d. 女性は墓穴を掘ってはならない。
- (54) a. 命令：女性は墓穴を掘ってはならない。  
 b. 違反：女性が墓穴を掘る。  
 (b'. 違反条件：もし女性が墓穴を掘ったら、)  
 c. 結果：両親が死ぬ。  
 d. 理由：習慣的

同じく死に関することであるが、男性は喪明けに妻以外の女性と一度寝なければならぬという決まりがある。(55)参照。これなどは勘ぐれば、男性の性的欲望のはけ口の勝手な口実になっていると考えられないこともない。しかし物事をそう歪曲(?)していいのかどうか。「では女性は？」と聞くと、「女性はそもそも死の穢れから免れているので、こういうことはする必要がない。」と言うのである。確かに、墓穴を掘ったり棺桶を運んだりするのは男性で、女性はそういうことをしないので穢れは少ないのであろう。

- (55) a. Omusáidža abyama n'omukázi murú.mdí gúmû kuturúka orúfû  
 b. o-mu-saidža a-byam-a na o-mu-kazi mu-rundi gu-mu  
 c. Aug1-NPr1-man he-sleep-Fin with Aug1-NPr1-woman NPr3-time EPr3-one  
 ku-turuk-a o-ru-fu.  
 to-go.out-Fin Aug11-NPr11-death

- d. 喪が明けるためには、男性は（妻以外の）女性と一度寝なければならない。
- (56) a. 命令：喪が明けるためには、男性は妻以外の女性と一度寝なければならない。
- b. 違反：喪明けに男性が妻以外の女性と寝ない。
- (b'. 違反条件：喪明けに男性が妻以外の女性と寝ないならば、)
- c. 結果：男性は交通事故など不幸な目に遭う。
- d. 理由：死の穢れを洗い流すには男性は妻以外の女性と一度寝なければならない。その女性が死を洗い流す。

(57)の雄鶏の例を見てみよう。まったく実利的に考えれば、これは雄鶏を食べる口実と考えられるが（もし雄鳥が夜鳴くと、子供に命じてその雄鳥を絞めるということになる）、そう考えていいのかわからない。むしろ象徴論的に考えた方がいいのであろう。

- (57) a. Enkóko empâ:ngi t'ekó:ká kurúga sá:ha émû kuhíka sá:ha munâ:na ez'e:kírô.
- b. e-n-koko e-m-pangi ti e-ko:k-a kuruga sa:ha e-mu
- c. Aug9-NPr9-chicken Aug9-NPr9-cock not it9-crow-Fin from hour NPr9-one  
kuhika sa:ha mu-nama e-za e-ki-ro.  
till hour NPr3-eight Aug10-of10 Aug7-NPr7-night
- d. 雄鳥は夜の7時から午前2時の間は鳴いてはいけない。
- (58) a. 命令：雄鳥は夜の7時から午前2時の間は鳴いてはいけない。
- b. 違反：雄鳥が夜の7時から午前2時の間に鳴く。
- (b'. 違反条件：雄鳥が夜の7時から午前2時の間に鳴くと、)
- c. 結果：一家の長が死ぬ。
- d. 理由：雄鳥は明け方に鳴くものであり、夜鳴くということは昼夜の秩序を壊すということである。そういうことはあってはならない。

最後に(59)の例を見てみよう。これは共同体の中で人が如何に生きていくかということと関連している。

- (59) a. Obu osá:ngá ense:néne zigwíre, otera endúrú abántu báidzé bazikwátê.
- b. obu o-sang-a e-n-se:nene zi-gu-ire, o-ter-a
- c. when you(sg.)-find-Fin Aug10-NPr10-grasshopper they10-fall-Perf you(sg.)-beat-Fin  
e-n-duru a-ba-ntu ba-idz-e ba-zi-kwat-e.  
Aug9-NPr9-shout Aug2-NPr2-person they2-come-Subj they2-them10-catch-Subj
- d. イナゴが地面に降りるのを見たら、あなたは人々が来て（一緒に）捕れるように大

声を上げなければならない。

- (60) a. 命令：イナゴが地面に降りるのを見たら、あなたは人々が来て（一緒に）捕れるように大声を上げなければならない。
- b. 違反：イナゴが地面に降りるのを見てもあなたは大声を上げて人を呼ばない。
- (b'. 違反条件：イナゴが地面に降りるのを見てもあなたが大声を上げて人を呼ばないならば、)
- c. 結果：あなたは交通事故に遭ったり、蛇に咬まれたりする。
- d. 理由：イナゴはニョロ族にとって重要な食べ物で、自分1人で捕るのではなく、みんなで分け合うものである<sup>20)</sup>。

## 12. 終わりに

筆者はアフリカでの言語調査から、様々なテキストを集めてきた。本稿で対象としたニョロ語のタブー表現もそういったものの1つである。それらは、未だ一度も書き取られたことのないものである。

データとしては未だ限られたものであるが、それでも一定のパターンが見えてきたことが、本稿を書く動機となっている。それはタブーというのは、人の行動を制御する大きな原動力となっているということである。自らを律し、また人をいたわることを可能にする力となっている。伝統的社会においては、これが大きな社会的役割を果たすと考えられる<sup>21)</sup>。

論理構造の形式面では、ニョロ語のタブー表現は、主部と述部を伴った節からなる3つの構成要素、すなわち、命令、違反、結果を必須要素として持つ。そのうち表現されるのは命令か、あるいは違反と結果のみであり、両方が表現されることはない。どちらが表現されても構わないが、命令のみが表現されることが多いという特徴がある。命令は、肯定命令と否定命令（＝禁止）の場合があるが、否定命令であることが圧倒的に多い。これは、そもそもタブーというのは、「～してはいけない」という行為の禁止を主たる目的にしていることから当然であろう。重要なことは、タブーには必ず結果があるということである。結果は怖いものであり、かつ違反から結果に至るプロセスは時間的推移による因果律のようでありながら、その論理には飛躍がある。それは、タブーの存在理由を隠すものになっている。すなわち習慣的と呼ばれるもの以外のタブーには、命令、違反、結果に加えてもう1つ筆者が理由と呼ぶものがあり、それはそのタブーがなぜ存在するかを説明するものである。しかしながら、この理由は決して表現されることはない。しかし、タブーとされているものの中でも習慣的とされているものは、強い理由を求める必要がない。

以上のタブー表現に対して、(18)のような禁止を表していてもタブーではない通常の警句の場合は、命令と違反はあるが、結果はなく、違反に続いて表現されるのは理由である。これが

タブー表現と通常の警句表現の大きな違いである。

またニョロ社会には、タブーに関連して、不吉というものがある。これは、世の中には自らコントロールできないものがあり、そういったものが生じた場合の対処の仕方を教えるものである。これも人が社会で生きていくための知恵として一定の役割を果たしている。

ニョロ語のタブーは数が多い<sup>22)</sup>。そして内容的にも多様である。ニョロ社会では、それはエチケット的なものから、衛生的・生理的観点から避けるべきもの、性的なもの、仕来り・習慣に関するもの、他社会では法律で規制するようなものまで様々なものが含まれる。そのためタブーには様々な学問分野が関心を寄せる。しかしながら、管見ながら1つの民族の多数のタブーを包括的に扱ったものはほとんどないようである。米山(1990)は例外の1つである。コンゴ東部のテンボ族のタブー(本稿で言うタブーと不吉の区別はしていない)を約150分析している。ただしテンボ語のテキスト化は行われず、日本語訳のみでの考察である。また本稿でいう論理構造分析も行われていない。

他方、日本民俗学では日本国内で極めて多数のタブー、不吉なもの、前兆などが、俗信ということで収集され研究されている。板橋(1998)は日本の俗信の優れた論考である。俗信は日本語で表記されるためか、多くの研究者が興味を寄せるのは形式よりも内容である。そして多くを抽象論的・象徴論的に解釈する<sup>23)</sup>。

ニョロ社会のタブーは、関与する範囲が広くかつ細かい。そのことが、通常のタブー表現の理由の解釈において、まず実利的・機能主義的立場を取らせる。そして実際、エチケット的、衛生的・生理的なものほど実利的・機能主義的に理解しやすい。ただし先にも述べたように筆者は理由をすべて実利的・機能主義的に解釈することが正しいと思っているわけではない。解釈は、個々の事例に即して、そして総合的に行わなければならない。

## 注

- 1) ニョロ語はバンツー系の言語で話者数は96万7000人を数え(Simons and Fennig, 2018)、ウガンダでは大きい部類の言語である。同じくウガンダ西部に話されるトーロ語、キガ語、アンコレ語などと近い親縁関係を有する。ニョロ族の主たる生業は農業(バナナ、ヒエ、ジャガイモ、コーヒーなどを栽培)であるが、牛も一定の役割を担っている。
- 2) ニョロ語テキストについては、すでに「ニョロ語の挨拶表現」(梶, 2012)と「ニョロ語の婉曲・比喩表現」(梶, 2013)を公表した。
- 3) 以下、既出の用語は単数形のみを掲げる。
- 4) 女の子の場合も同様に、「女の子はカマドに腰をかけてはいけない。」と言われる。そして、「もし腰をかけると母親が死ぬ。」と続く。
- 5) 用いる略語は以下のようなものである。Aug: augment (冠詞の一種), NPr: nominal prefix (名詞類接頭辞), PPr: pronominal prefix (代名詞類接頭辞), EPr: enumerative prefix (数接頭辞), SP: subject prefix (主語接頭辞), Appl: applicative (適用形), Prefin: prefinal (前語尾), Fin: final (動詞語尾), Perf: perfective (完了語尾), Prog: progressive (進行形), Subj: subjunctive (接続法), SubRel: subject relative (主語関係節), ObjRel: object relative (目的語関係節), Clit: clitic (接語)。  
ニョロ語には名詞のクラスがある。NPrなどのあとの数字は名詞のクラス番号である。記述を簡潔に

するため、「彼」「彼女」など人間を示すものについてはSPr1（クラス1の主語接頭辞）などとせず、*he*, *she* とした。ただ *it* 「それ」については、それが何を指しているかわかるようにクラス番号をふり *it7*（クラス7の名詞を受ける「それ」）などとした。なお、名詞のクラスの中には、例えばクラス18は「～の中」、クラス7は「小さい」など、特徴的な意味を持つものがある。ニョロ語の名詞のクラスの概略についてはKaji (2015)を参照。

- 6) ここでカマドと言うのは、ニョロ語で *ihêga* (sg.), *amahêga* (pl.)（あるいは *ihîga* (sg.), *amahîga* (pl.)）と呼ばれるものである（Kaji, 2015）。これは調理時に鍋を固定するための石で、通常3個ある。台所の中央にあり、調理していない時は、ちょうど腰かけにいい感じとなる。ただし鍋はかかかっていなくても、熱い場合があるので注意が必要である。
- 7) 現在収集しているタブー表現118のうち肯定命令は17である。
- 8) 肯定命令の後に否定命令（また否定命令の後に肯定命令）が続くのは、同じ内容を2回繰り返すことなので正式表現とは見なされないようである。普通は後半部分を省く。(11)の例は、この例を提供してくれた人がそう言ったので、そのまま記録してあるが、この同じものを同一人に後でもう一度聞くと、後半部分は言わなかった。
- 9) *omukâgo* (sg.), *emikâgo* (pl.) 「血の契り」とは、2人の人間がそれぞれの指をカミソリで切り、手に持ったコーヒー豆に相手の血をつけ飲み込む儀式である。こうして忠誠を誓い合った人の間では、終生強い友情が保たれる。
- 10) 相補分布が確認されても、それがそのまま同一単位として纏められるとは限らない。例えば、よく知られているように英語の [h] と [ŋ] は相補分布をなすが同一音素ではない。同一音素とするには音声的類似性が重要である（日本語の [j] と [s] 参照）。(3)の場合、命令「男の子はカマドに腰をかけてはいけない。」と違反「男の子がカマドに腰をかける。」には明らかに内容の共通性があるが、結果が述べる内容「父親が死ぬ。」は、命令とは全く関係ないものである。もし同一単位とするならば、結果は違反に付随するものと考えべきであろう。なお、(11)の場合も一見、相補分布をなすように見えるが、そうではなく、後半部分が付け足しである。相補分布では2つの要素が同時に現れることはないが、(11)の場合は同時に現れる。
- 11) 後で述べる(51)の例も（これは不吉に関するものであるが）、命令ではなく違反と結果が表現されている。日本語のタブー表現は、ニョロ語とは逆に、「夜中に口笛を吹くと鬼が来る。」のように、命令がなく違反と結果を示すものが多い。
- 12) 女性の場合も同様に、サツマイモ畑で小便をすると「不妊になる」と続く。
- 13) 本稿では述べる余裕はないが、女性はそもそも口笛を吹くこと自体がタブーである。
- 14) *Omwisîkî* は字義通りには「少女」である（グロス参照）が、この語は3, 4歳の少女から *omukâzi* 「成熟した女性、妻」になる前までの広い範囲の女性を指す。従ってコンテキストによっては「少女」とせず「女性」と訳した場合がある。
- 15) *o-mu-bi-gere/Aug18-NPr18-Npr8-foot* 「足の中」というのは、「月経中」ということの婉曲表現である（梶, 2013 参照）。例文(29)の *mu-rwaire/NPr1-sick* 「病気の」と例文(31)の *o-mu-ku-ezi/Aug18-NPr18-Npr15-month* 「月の中」も同様である。
- 16) 注15参照。
- 17) 注15参照。
- 18) これはなぜかと聞くと、「年配の女性は足関節の悪い人が多いから。」という理由がかえって来る。
- 19) 最終的に、食物学的理由が見つかるかもしれない。もしそうなら、(35)は隠された理由のわかりにくい例の1つということになる。
- 20) イナゴは11月中旬ごろから現れ始める。これはニョロ族にとってクリスマス前の天からの貴重な贈り物となる。ニョロ族の多くはキリスト教徒である。
- 21) コンゴ東部のテンボ社会においてタブー（禁忌）の詳細な調査を行った米山は、「一連のキシラの存在が、人びとの行動規範となっている」と述べている（米山, 1990: 151）。米山(1990)によれば、テンボ社会には、本稿で言うタブーと不吉の違いはないようである。いずれもキシラ (*kisira*) と書いている。ただし、この *kisira* という単語はスワヒリ語の *kizila* 「タブー」のテンボ語なまりで、テンボ語自体では *músîró* (sg.), *mîsîró* (pl.) とする（Kaji, 1986: 371）。

- 22) 現在筆者はニョロ語のタブー及び不吉について130集め分析をしているが、最終的にはその数は1000をはるかに超えると思われる。
- 23) 板橋(1998)は、例えば昼と夜の対比について次のように言う。「…夜に洗濯物を干すことを禁じる場合、もちろん夜に干しても乾きが悪いし、夜露に濡れてよくないだろう。しかし、禁じる理由としては弱い。その禁止は、現実的な理由ではなく、夜と昼、夜の行動と昼の行動をわける文化的秩序観からきているのであるから。」(板橋, 1998: 105-106)。

#### 参考文献

板橋作美 1998 『俗信の世界』東京堂出版。

Kaji, Shigeki. 1986 *Lexique Tembo I: Tembo-Swahili du Zaïre-Japonais-Français*. Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa. Tokyo University of Foreign Studies.

梶 茂樹 2012 「ニョロ語の挨拶表現」『アジア・アフリカの言語と言語学』7: 81-120.

梶 茂樹 2013 「ニョロ語の婉曲・比喻表現」『アジア・アフリカの言語と言語学』8: 201-235.

Kaji, Shigeki. 2015 *A Runyoro Vocabulary*. Kyoto: Shoukadoh.

Simons, Gary F. and Charles D. Fennig (eds.). 2018. *Ethnologue: Languages of the World*, Twenty-first edition. Dallas, Texas: SIL International. Online version: <http://www.ethnologue.com>.

米山俊直 1990 『アフリカ農耕民の世界観』弘文堂。



# Expressions of Taboo in the Nyoro Language: Description and Analysis

Shigeki KAJI

## Abstract

In the Nyoro society of Uganda, we find three terms related to the meaning of the term “taboo.” The first, *i:hâno* (sg.), *amahâno* (pl.), means “taboo or prohibition.” The second, *ekisirâ.ni* (sg.), *ebisirâ.ni* (pl.), means “bad omen.” And, the third, *omuzîro* (sg.), *emizîro* (pl.), means “totem.” Although totems specify some animals, objects, or even human conducts as taboos for the clan members, they do not apply to all sections of the Nyoro society. Further, their taboos are a part of the totem regulations, the description and analysis of which are beyond the scope of this article. In this article, we deal with taboos and bad omens relating to all sections of people in the Nyoro society.

Taboos and bad omens concern the relationships of individuals to the society and the entire world. They both regulate the conducts of individuals. In our analysis, taboos express prohibitions that one can control, regardless of whether one observes them. For example, it is said that boys should not sit on a cooking stone as, if they do, their father would die. This is a scary enough for boys to not sit on a cooking stone. Why is it so? The answer to this question lies in the fact that if one sits on a cooking stone, one may get burnt. Therefore, sitting on the cooking stone must be avoided. “In order to not get burnt” is the hidden reason behind this taboo. Instead, they say “because your father may die” to make this caution sound effective to boys.

Bad omens, in contrast, refer to what one should do when one meets with an inevitable, evil force. For example, a rat should not cross the road when one embarks on a journey as it may cause an accident to happen in the course of the journey. So, if one sees a rat crossing the road, one should rethink whether to continue with the journey. What is important to notice here is that while one can control his/her conduct, he/she cannot control the appearance of a rat on the road.

In this article, we deconstruct taboo expressions into four clauses and clarify what is overtly expressed and what is not through logical analysis. Another characteristic of this article is to analyze taboo expressions from a functional point of view, to the largest possible extent, seeking hidden reasons behind their occurrence.

**Keywords:** Taboo, Bad omen, Logical analysis, Hidden reason, Nyoro